

みんなに支えられて

小 四

街を歩いていると、時々、松葉づえを使っている人や車いすに乗った人を見かけます。その時、「ぼくに、何かできることはないかな。」と思い、とても気になります。そして、二年生の時のことを思い出します。

ぼくは、二年生の時、A県のスキー場に行き、けがをしてしまいました。近くの病院へ行っしてんさつしてもらうと、

「こっせつをしています。」と先生に言われました。家にもどってから、また病院へ行っしてレントゲンを

とりました。今度は、

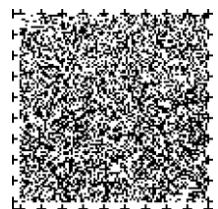
「ずれていないから、大じょう

ぶだよ。」

と言われました。

でも、かん治まで三か月かかりました。その三か月はとても大変でした。けがをしてからの一か月は、せっこつ院の先生が家に来てくれて、けがをしんさつしてくれました。ぼくが動けないので、病院へ行けなかったからです。学校にも行けなかったので、同じクラス友達、毎日宿題を持ってきてくれました。ぼくは、とてもうれしかったです。ありがとうという気持ちです。いっぱいになりました。

そして、けがをしてから一か月後、松葉づえを使って学校へ行けるように



になりました。

けがをしてから初めて教室へ行くと、

「けがは大じょうぶ？」

「学校へ来られるようになって、よかったですね。」

とたくさんの友達が、心配したり喜んだりしてくれました。その時、ぼくはともうれしかったです。

学校の階段では、松葉づえを友達が持ってくれ、ぼくは他の友達に支えてもらいながら上がることができました。また、ろう下を歩く時は、ぼくのおそい歩みに合わせて、教科書やノートを持ってついてきてくれました。多くの友達や先生方に声をかけてもらったり手伝ってもらったりしました。ぼくは、「ぼくのことを心配したりやさしくし



てくれたりする人が、こんなにたくさんいるんだ。」とうれしく思いました。このけがをした時から、困っている人がいたら、あの時ぼくが助けてもらったように、今度はぼくが手助けしていきましょうと、いつも思っています。あの時のみんな、本当にどうもありがとう。

